

各 位

平成 15 年 1 月 17 日

平成 15 年 8 月期第 1 四半期の業績等の概況

会 社 名 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(コード番号 8462)

本店所在地 京都市中京区室町通御池上ル御池之町 314 番地

問 合 せ 先 取締役 大橋克己

T E L 075-257-2511

1. 業績

(1) 平成 15 年 8 月期第 1 四半期(平成 14 年 9 月 1 日～平成 14 年 11 月 30 日)の業績

(百万円未満切り捨て)

	15 年 8 月期第 1 四半期 (当四半期)	対前年同期 増減率	14 年 8 月期第 1 四半期 (前年同四半期)	参考 前期(通期)
売 上 高	百万円 86	% 10.2	百万円 96	百万円 409
営 業 利 益	31		0	158
経 常 利 益	32		8	160

(2) 部門別の売上高内訳

	15 年 8 月期第 1 四半期 (当四半期)		対前年同期 増減率	14 年 8 月期第 1 四半期 (前年同四半期)		参考 前期(通期)	
	金額	構成比		金額	構成比	金額	構成比
投資事業組合等管理業務	百万円 59	% 69.1	% 40.8	百万円 42	% 44.1	百万円 213	% 52.0
コンサルティング業務	24	28.4	47.4	46	48.5	162	39.6
営業投資有価証券売上高	1	1.2	82.3	5	6.0	24	6.1
そ の 他	1	1.3	16.3	1	1.4	9	2.3
合 計	86	100.0	10.2	96	100.0	409	100.0

(3) 主な資産・負債の変動について

項目	15年8月期第1四半期	増減額	前期末
(資産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	295	19	275
営業出資金	97	37	60
(負債)			
短期借入金	220	166	53
長期借入金	293	80	374

(注)1. 項目ごとの変動額が総資産額の1%を超えるものを記載しております。

2. 現金及び預金については、19百万円の増加となりました。これは当社が運営・管理する投資事業組合の当社持分預金であります。なお、負債については当社の運営・管理する投資事業組合への出資のために借入を行いました。
3. この報告における当四半期及び前年同四半期の数値については公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

2. 業績の概況

当四半期におけるわが国経済は、米国経済の景気減速、個人消費の長期不振、企業収益の悪化、企業の設備投資の抑制等により引き続き低迷を続けております。大手企業が相次いで人員削減計画を発表する等、雇用情勢も依然として厳しい状況にあります。

株式市場におきましては、企業業績の悪化、不良債権問題等により下落傾向にあり、当四半期の日経平均株価が低迷しております。

ベンチャーキャピタル業界全体については、ベンチャーキャピタルの投資残高の増加は鈍っております。ベンチャー企業の新興企業向け3市場(ジャスダック、東証マザーズ、大証ヘラクレス)の新規公開社数が減少しております。又、ファンドの募集についても、株式市場の低迷等の影響を受けて資金調達が難しい状況にあります。

しかし、投資対象であるベンチャー企業については、人材流動化により優秀な人材を獲得しやすくなっております。新興企業向け3市場が開設・改革され、商法改正が行われる等、ベンチャー企業投資を取り巻く環境は整ってきております。

このような経済環境のもと、当社の当四半期の業績は、売上高が86百万円(前年同期比9百万円減収、前年同期比10.2%)、経常損失が32百万円(前年同期比24百万円減益)となりました。

<組織体制について>

当社は、平成14年9月1日よりファンド募集のための専任部署として新たに「事業推進部」を新設し、ファンドの企画・募集体制を強化いたしました。事業推進部創設に伴い、年金基金等をはじめとする機関投資家へのアプローチを積極的に進めております。新ファンドの企画としては、石川県、岩手県に続く地方自治体と連携したファンド、事業法人や機関投資家をターゲットとしたファンドなどを具体的に検討しております。

<ファンドの運営・管理について>

当四半期末現在、当社が運営・管理する投資事業組合(以下、投資事業組合)は12組合、出資約束金総額7,700百万円となりました。なお、平成14年4月に設立した「いわてベンチャー育成投資事業有限責任組合」が中小企業総合事業団からの25口(250百万円)の加入により、計画どおり1,000百万円のファンド総額になりました。

<投資状況について>

当四半期末現在、投資事業組合及び当社からの投資実行額は、12社に対して161百万円(前年同期14社、1,152百万円)で、投資実行残高は105社、5,584百万円(前年同期72社、4,119百万円)となりました。当四半期中に投資事業組合の投資先企業1社が株式上場を果たしております。

(1) 種類別投資実行高及び投資残高(当社による直接投資)

(単位 百万円)

	第1四半期 (自 平成14年9月1日 至 平成14年11月30日)				前事業年度 (自 平成13年9月1日 至 平成14年8月31日)			
	投資実行高		投資残高		投資実行高		投資残高	
	社数	金額	社数	金額	社数	金額	社数	金額
株式			1	13	1	51	1	13
転換社債			5	175	2	70	5	175
新株引受権付社債			1	29	18	1,703	1	29
社債								
その他								
小計			7	218	21	1,824	7	218
投資事業組合に対する 当社出資持分額				1,280				1,286
合計			7	1,498	21	1,824	7	1,505

(2) 投資先企業の公開等状況

当四半期(平成14年9月1日から平成14年11月30日)において、当社の運営・管理している投資事業組合からの投資先企業の公開等状況を、以下に記載しております。

社数	投資先企業名	公開等年月	公開等	事業内容	本社所在地
1社	ビービーネット(株)	平成14年9月	公開 (大証ヘラクレス市場)	食を提供する中小専門店に対して 食材・原材料の業種特化型供給	大阪府

3. 当期の見通しについて

わが国の経済情勢は、デフレ経済の中、不良債権処理という課題に直面しており、米国経済の景気減速等も加わって、経済の停滞が更に長期化する懸念があり、当社にとっても厳しい事業環境が続くものと予想されます。

このような状況の中、上場延期を選択した投資先もありました。公開を果たした、又は公開準備中の投資先会社についても、現状の株式市場では、市場での売却時に当初予定していたキャピタルゲインを得ることが難しいことも予想されます。

以上のような状況から、当四半期の業績は当初の予想を下回っておりますが、平成14年10月16日付決算短信において前期決算とともに発表した業績予想に現時点では変更ありません。当四半期を含めた中間期の業績については厳しい状況が続いておりますが、通期に関しましては、当初の業績予想の達成を目指してまいります。

4. 資本金、発行済株式数、潜在株式及び増減資の状況

(1) 資本金、発行済株式総数及び増減資の状況

年月日及び摘要	前期末 (平成14年8月31日)	増加	減少	当四半期末 (平成14年11月30日)
資 本 金	1,136百万円			1,136百万円
資 本 準 備 金	420百万円			420百万円
発行済株式総数	21,989株			21,989株

(2) 潜在株式の状況

銘柄 <発行日>	潜在株式数	行使価格	資本組入額	摘要
ストックオプション <平成13年11月28日開催株主総会特別決議分>	株 573	円 166,717	円 83,359	ストックオプション

(注)平成14年11月27日開催の当社第4期定時株主総会におきまして、当社の業績向上に対する意欲や士気を高めることを目的とし、ストックオプションとして当社の取締役、監査役及び従業員に対し当社普通株式200株を上限として、新株予約権を発行することにご承認をいただいておりますが、現在発行に至る取締役会決議は行っておりません。

5. その他

当社のファンドの企画・募集体制のより一層の充実を図ることを目的として、平成14年9月1日付をもって事業推進部を開設いたしました。

新組織図は以下のとおりであります。

